

# 河川や道路の工事現場見学会

DATA

場 所：山形県山形市  
 実 施 者：山形工事事務所 地域づくり推進室 [TEL (023) 688-8421]  
 参 加 者：山形市立蔵王第一中学校3年生 200名(7月17日)、40名(8月27日)  
 実 施 日：平成11年7月17日・8月27日  
 学 習 時 間：1～6.5時間

関係する分野



背景

山形市立蔵王第一中学校は、平成14年度から始まる「総合学習」の研究開発校として、山形県から指定され、平成11年度から試行的に総合学習を実践しています。蔵王第一中学校では、保護者・地域の方々を中心に専門的な立場から体験の場や情報を提供してくれる方を教育支援者として登録する「教育支援者制度」を設けており、学区内にある山形工事事務所も登録していました。

内容

「総合的な学習の時間」として取り組む生徒のテーマが定まっていない時期に、学校側からの要請を受け、3学年200名全員を対象に、総合学習のテーマ選択の情報提供として山形工事事務所長が、事業(仕事)の内容、河川や国道の整備プロセスなどについて説明しました。  
 その1か月後の見学会には、建設事業に関心を持った40名の生徒が工事現場見学に参加し、山形工事事務所職員が河川の護岸工事・道路工事・道の駅・道路監視システムなどの普段なかなか見ることができない建設現場の紹介を行いました。



中学校での説明の様子

ポイント

- 学年全体への事前説明は、自分のテーマを決めかねている生徒への重要な情報提供となり、現場見学に自主的な参加を促す機会となりました。
- 建設事業をテーマとしない生徒にとっても、建設事業への理解を深める貴重な機会となりました。
- 現場の選定には、国土交通省だけではなく、日本道路公団の協力もいただき、また「道の駅」などの施設や道路管理システムなど、維持管理面の業務も見学し学べるように配慮しました。
- 社会を支えるために働いている人の姿や声に触れてもらうなど、社会性の向上にも配慮しました。

成果

生活を支える公共施設の建設現場の見学にとどまらず、建設や道路供用後の維持管理などに従事する方々の姿や声を伺うことで、新たな体験と社会の仕組みを考える契機となりました。見学の様子は、河北新報や山形新聞に記事として掲載されました。

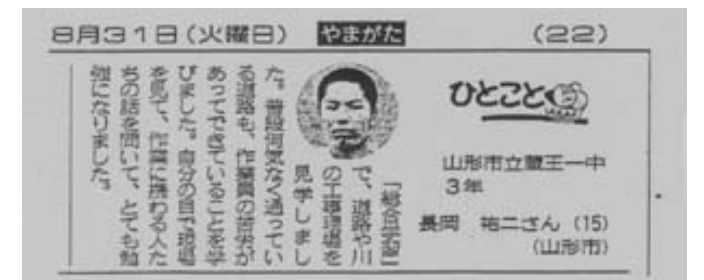
参加者の声

「普段何気なく通っている道路も、作業員の苦勞があって出来ていることを学びました。自分の目で現場を見て、作業に携わる人たちの話を聞いて、とても勉強になりました。」

(山形市立第一中学校 3年生)



河北新報 平成11年8月28日



山形新聞 平成11年8月31日

次のステップに向けて

- 公共施設の建設現場を見学するだけでなく、その公共施設が地域にどのように役立つのか、そのためにどのような調査・設計・建設・維持管理がなされているのかを取材して、学習を深めていくことができます。
- 自然環境やリサイクル、景観などをどのように考えているかなど、1つの公共施設から深く学ぶこともできます。